

2024年度 応用臨床疫学講義スケジュール						
	月日(曜日)	時間	場所	テーマ	担当教員	講義概要(シラバス登録用)
1	9月4日(水)	18:00～19:30	マルチメディアホール	臨床疫学研究におけるリアルワールドデータ活用の可能性と課題	川崎 良 (公衆衛生学)	・リアルワールドデータとは？ ・リアルワールドデータの活用例 ・学会主導疾患レジストリ利用例 ・診療実態・治療法比較 ・JMDCデータ利用例 ・診療実態・処方パターン・疑似割り付け ・デンマークナショナルレジストリ利用例 ・記述疫学・重複疾患探索 ・これからのリアルワールドデータ活用に向けた取り組み: 阪大病院データバンクの例
2	9月11日(水)	18:00～19:30	マルチメディアホール	リアルワールドデータを用いた臨床研究の実例	平山 敦士 (公衆衛生学)	リアルワールドデータを用いて執筆・出版した経験をもとに解析とアウトプットの実際を米国公衆衛生大学院留学の経験とともに概説する。特に近年注目度の高い手法のひとつであるSelf-controlled case series methodについての事例を概説する。
3	9月18日(水)	18:00～19:30	マルチメディアホール	レセプトや公的データの利活用	村木 功 (公衆衛生学)	レセプトの利用や、公的データを用いた長期フォローアップの方法、手続きを学ぶ。
4	9月25日(水)	18:00～19:30	マルチメディアホール	臨床研究の基礎としての疫学	北村 哲久 (環境医学)	疾病に罹患した後の患者集団の治療効果ならびに予後解析を行うための基礎知識として必須である。臨床疫学研究を遂行するにあたって知っておくべき基礎を学ぶ。
5	10月2日(水)	18:00～19:30	マルチメディアホール	臨床疫学データベース構築のピットフォール	北村 哲久 (環境医学)	近年、様々な分野においてビックデータの時代である。ヒトを対象とした臨床研究を行う場合に患者集団データセットを構築することは重要である。臨床データベース構築の際のノウハウとそのピットフォールについて学ぶ。
6	10月9日(水)	18:00～19:30	マルチメディアホール	臨床研究データの品質管理	山田 知美 (未来医療開発部)	データマネジメントの方法論やデータインテグリティの基本的な考え方を理解し、臨床研究データの品質管理の重要性を学ぶ。また、研究者がデータの品質管理を実践するために有用と思われる、未来医療開発部データセンターが提供するコンサルテーションやツールの紹介も行う。
7	10月16日(水)	18:00～19:30	マルチメディアホール	臨床疫学研究論文の書き方	北村 哲久 (環境医学)	NEJMなど400以上の臨床研究論文を作成ならびに指導した経験を開き、臨床研究論文の文章を効率的に作成するためのノウハウを学ぶ。
8	10月23日(水)	18:00～19:30	マルチメディアホール	がん登録データの利活用(案)	伊藤 ゆり (大阪医科薬科大学)	臨床研究における全国がん登録、院内がん登録、地域がん登録などの活用の仕方について学ぶ(案)
9	10月30日(水)	18:00～19:30	講義棟B講堂	電子カルテからの臨床研究データの収集方法	武田 理宏 (医療情報学)	電子カルテに蓄積されているデータの臨床研究での利用方法、多施設でデータを収集するための臨床研究基盤システムについて学ぶ
10	11月6日(水)	18:00～19:30	講義棟B講堂	疫学と統計をつなぐ因果推論	坂庭 嶺人 (公衆衛生学)	因果推論の基本的な考えを理解し、生物統計を疫学研究に応用適用させるためのポイントを学ぶ
11	11月13日(水)	18:00～20:00	講義棟D講堂	臨床疫学研究のための統計講義①	小向 翔 (医学統計学)	回帰分析の基本を学ぶ。
12	11月20日(水)	18:00～20:00	講義棟B講堂	臨床疫学研究のための統計講義②	門田 麗 (広島大学)	多重代入法など欠測データ解析の基本を学ぶ
13	11月27日(水)	18:00～20:00	マルチメディアホール	臨床疫学研究のための統計講義③	服部 聡 (医学統計学)	傾向スコアによる交絡調整の基本を学ぶ。
14	12月4日(水)	18:00～20:00	マルチメディアホール	臨床疫学研究のための統計解析実習	小向 翔 (医学統計学)	傾向スコアを用いた実際の医学研究によるSAS及びRの統計解析実習(回帰分析, 傾向スコア解析, 多重代入法)
15	12月11日(水)	18:00～20:00	マルチメディアホール	特別講義 「医療情報・ゲノム情報の利活用の進め方—ELSI(倫理的・法的・社会的課題)の観点を中心に」	加藤 和人 (医の倫理と公共政策学)	現代の医療・医学においては、医療情報やゲノム情報は当該患者の治療に用いられるだけでなく、多数の患者や健常者から集積され、研究や創薬などの二次的な活動に利活用されるようになっている。そうした活動が社会に信頼され最大限の恩恵をもたらすためには、多くの課題、とりわけ倫理的・法的・社会的課題(ELSI)に取り組む必要がある。本講義では、医療情報・ゲノム情報の利活用に伴うELSIと必要な対応について述べる。